

音楽科学習指導案

令和3年5月19日(水) 第6学年2組(第2音楽室) 指導者 稲森 稚明

【題材】 いろいろな音色を感じ取ろう (『木星』『ラバースコンチェルト』『ボイスアンサンブル』)
(A表現(2) ア・イ(イ)・ウ(イ), (3) ア(ア)(イ)・イ(ア)・ウ(ア), B鑑賞(1) ア)

考察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す 資質能力	・曲想とパートの役割に合う音色との関わりについての理解 ・パートの役割に合う音色で、演奏したり音楽をつくったりする技能	・パートの役割に合う音色で演奏することについて思いや意図をもつ力 ・曲想とパートの役割に合う音色との関わりによって生まれるよさを見だし、曲全体を味わいながら聴く力	・曲想とパートの役割との関わりに関心を持ち、曲想やパートの役割に合う音色を考えながら、主体的に表現したり聴いたりしようとする態度
児童の実態	・曲想と音色との関わりについて理解し、それらを生かして表現してきている。 ・パートごとに役割があることや、パートの役割に合う音色で演奏することは初めて学習する。	・音の重なりや音色を生かして演奏することに思いや意図をもったり、それらを味わいながら聴いたりしてきている。 ・パートの役割を学習するのは初めてだが、旋律が重なるときに、旋律ごとに音色を変えるとよいと気付いている児童もいる。	・音の重なりに関心を持ち、曲想に合う音の重なりや音色を考えながら、進んで表現したり聴いたりしてきている。 ・自分の旋律や友達の旋律の違いに関心をもっているが、旋律やパートの役割まで意識した演奏には至っていない。
価値	合奏において、それぞれの旋律や楽器のパートには「主な旋律・飾りの旋律・響きを豊かにする和音・支える低音」といった役割がある。曲の中では、それらの役割に合う音色で演奏されることで、その曲特有の曲想が生まれたり、場面によってパートの役割が代わっていくことで曲想に変化が生まれたりする。 ・パートの役割が分かりやすい鑑賞曲と表現曲を用いて、鑑賞、合奏、音楽づくりを行うことは、段階を追ってパートの役割について考えられ、曲想とパートの役割に合う音色との関わりを理解することができる。そして、鑑賞曲で気付いたパートの役割に合う音色を生かして、演奏したり、音楽をつくったりできる。	・パートの役割を視点にして工夫を考えることは、自分の音色を生かした演奏の達成度を把握することができ、パートの役割に合う音色に思いや意図をもてる。 ・金管・木管・弦・打楽器の各パートの役割が交代していく曲を聴くことは、パートの役割やそれに合う音色と曲想とを結び付けやすいため、曲想とパートの役割との関わりから生まれるよさを見だし、曲全体を味わいながら聴ける。	・パートの役割が分かりやすい曲を聴いたり表現したりすることは、自分のパートの演奏について深く聴いたり、詳しく音楽表現の工夫を考えたりすることにつながるため、パートの役割や曲想に合う音色で主体的に聴いたり表現したりできる。 ・合奏やつくった音楽を発表する機会を設定することは、達成感を得ることができ、今後の鑑賞や表現に生かせる。
見方・考え方	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音色とその働きの視点で捉え、曲想とパートの役割とをつなげて考えること。		
今後の学習	6年「いろいろな和音の響きを感じ取ろう」で、それぞれの旋律の音を聴き取り、和音の響きを味わいながら演奏する学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	曲想とパートの役割の関わりについて理解し，パートの役割に合う楽器の音色を味わいながら聴いたり，パートの役割を生かして音色を工夫して表現したりしている。				
評価 規準	(①知・技) 曲想とパートの役割に合う音色との関わりについて理解し，パートの役割に合う音色で，演奏したり音楽をつくったりしている。 (②思・判・表) パートの役割に合う音色で演奏することについて思いや意図をもっている。 曲想とパートの役割に合う音色との関わりによって生まれるよさを見だし，曲全体を味わいながら聴いている。 (③主体的態度) 曲想とパートの役割の関わりに関心をもち，曲想やパートの役割に合う音色や強弱を考えながら，主体的に表現したり聴いたりしようとしている。				
教材	ア…【鑑】管弦楽組曲『惑星』から 木星 ホルスト 作曲 変ホ長調 4分の3拍子 イ…ラバーズコンチェルト デニー ランデル・サンデー リンザー 作曲 石桁冬樹 編曲 ヘ長調 4分の4拍子 ウ…ボイスアンサンブル				
過程	時間	配分	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	ア	○『木星』を木星の様子をイメージしたり，使われている楽器を調べたりしながら聴き，学習のめあて「曲想とパートの役割の関わりを調べよう」をつかむ。	○曲想の変化する場面ごとの，木星の样子の違いに気付けるように，曲を聴きながら曲想に合う木星の画像を探す機会を設定する。	◇曲想から木星の様子を想像し，場面ごとの木星の样子の違いについて，発言したり記述したりしている。 ＜発言・タブレット③＞
	1		○『木星』を，パートごとの役割に気を付けながら聴く。	○パートの音色を聴き取れるように，「弦楽器・金管楽器・木管楽器・打楽器」をパートごとに提示し，1つの楽器について詳しく聴く機会を設定する。	◇自分の選択したパートの役割と音色との関わりについて，発言したり記述したりしている。 ＜発言・タブレット①②③＞
	1		○『木星』の曲全体を味わいながら聴く。（本時）	○曲想と自他のパートの役割の音色の関わりに気付けるように，それぞれのパートの役割に合う音色を伝え合いながら，タブレット上で整理する機会を設定する。	◇曲想と各パートの役割に合う音色との関わりについて，発言したり記述したりしている。 ＜表現・タブレット②＞
追求する	1	イ	○『ラバーズコンチェルト』を聴いたり，旋律をキーボードで演奏したりする。	○曲想から場面の様子を思い浮かべられるように，原曲を聴いたり，様々な音色で旋律を演奏したりする機会を設定する。	◇曲想を感じ取り，曲から思い浮かんだことについて発言したり記述したりしている。 ＜表現②＞
	1		○『ラバーズコンチェルト』の各旋律を演奏し，各旋律に合ったキーボードの音色や楽器を選ぶ。	○曲想に合うキーボードの音色や楽器を選択できるように，曲想に合いそうな音色や楽器を複数提示し，楽器の音色を試す時間を設定する。	◇パートの役割に合う，キーボードの音色や鍵盤打楽器の奏法を試している。 ＜表現②＞
	2		○『ラバーズコンチェルト』を合奏する。	○自分のパートの役割を意識して演奏できるように，それぞれのパートの役割や，それに合う音色を伝え合う機会を設定する。	◇自分のパートの役割に合わせて音色や奏法を工夫しながら，音を合わせて演奏している。 ＜表現①＞
	1	ウ	○様々な声を出して遊び，『ボイスアンサンブル』の発想を得る。	○様々な声の音色や出し方を紹介し合えるように，ロイロノートのカードに録音する時間を設定する。	◇パートの役割を生かした様々な声の出し方やつなげ方に気づき，発言したり録音したりしている。 ＜表現・タブレット②＞
	1		○『ボイスアンサンブル』をつくる。	○パートの役割に合う声の音色を試し，それぞれのよさに気付けるように，役割と声の出し方について記述できるワークシートを，グループごとに用意する。	◇様々な声の音色を生かして演奏することについて思いをもち，パートの役割を生かして音楽をつくっている。 ＜表現①②③＞
まとめる	1	イウ	○『ラバーズコンチェルト』や『ボイスアンサンブル』を発表する。	○パートの役割に合う音色を工夫して表現してきたことを実感できるように，グループごとに発表する機会を設定する。	◇グループで工夫したパートの役割に合う音色を生かして，主体的に表現したり，友達の表現を聴いたりしている。 ＜表現①②③＞

本時の学習（3／10時間目）

ねらい 聴き取った金管楽器・木管楽器・弦楽器・打楽器の各パートの役割や、それに合う音色を伝え合ったり、伝え合ったことを基に曲を繰り返し聴いたりすることを通して、曲想とパートの役割に合う音色との関わりから生まれるよさを見だし、曲全体を味わって聴くことができる。

評価項目 曲想と各パートの役割に合う音色との関わりについて、発言したり記述したりしている。 <表現・タブレット②>

学習活動と児童の意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 - それぞれの楽器のパートには「主役・背景役・盛り上げ役・支える役」といった役割があったな。曲想を表すために、金管楽器は主役のときには華やかな音色だったり、支えているときには落ち着いた音色だったりしたな。 - ア「迫力のある力強い木星」やイ「優しくてきれいな木星」という曲想を表すために、それぞれの楽器のパートでは役割に合わせてどんな音色で演奏しているのだろうか。（課題意識）	○前時で自分が選択したパート（金管楽器・木管楽器・弦楽器・打楽器）の役割や、それに合う音色を想起できるように、前時で作成した場面ごとに聴き取ったパートの役割や、それに合う音色について記述したカードを振り返るよう促す。 ○曲想と各パートの役割に合う音色との関わりを、別のパートを聴いた友達と考えを伝え合ったり曲を繰り返し聴いたりしながら考える、という本時の見通しがもてるように、アの最初の場面の曲想と各パートの役割との関わりについて問いかける。
めあて：曲想とそれぞれの楽器の役割の関わりを、聴きながら調べよう	
2 曲を聴きながら、曲想と各パートの役割に合う音色との関わりを考える。 - アの曲想を表すために、金管パートは、主役として華やかな音色で演奏しているよ。弦楽器は細かい音が集まっているような音色の響きをつくることで、宇宙の雰囲気を出す役割があるのだな。 - 最初の場面は弦楽器と木管楽器が響きをつくって、華やかな音で主役が登場しているね。宇宙の中で木星が表れる感じがするよ。その後、打楽器が堂々とした音で登場するのは、主役を支えている感じがするからかな。 - 友達の役割のことも知ってから聴くと、曲想を表すためにそれぞれの楽器が音色を工夫して演奏していることが分かったよ。 - アの途中から聴いたグループの友達が言うように、弦楽器、木管楽器、金管楽器と主役が次々と変わって、さらに打楽器が入ってくることによって迫力のある音色になっているよ。他の場面はどうか。 - イの場面では、主役が弦楽器に変わるね。金管楽器や木管楽器は、弦楽器に合う優しい音色で響きをつくっているね。途中から登場する打楽器も、アとは違って、はっきりした音で演奏して支えている感じがするよ。 - 主役として華やか優しい音色で演奏するパートと、広がりや盛り上がりを出す音色の響きを出すパート、堂々とした音色で支えるパート等が関わり合って、曲想が表れていることが分かったよ。（課題を解決した意識）	○自分が選択したパート以外のパートの役割や、それに合う音色について気付けるように、各楽器のパートから1名ずつ集まったグループを編成し、聴き取った音色や、その音色から想像したことを伝え合うよう促す。 ○自分と友達のパートが関わり合って、曲想が生まれていることに気付けるように、アの曲想と各パートの役割に合う音色のカードを、話し合いながらタブレット上にまとめるよう促す。 ○まとめる際に、曲想と各パートの音色との関わりを音で確かめられるように、話し合いの中で、適宜タブレットで曲を聴くよう促す。 ○アの場面の中でも、パートの役割や、それに合う音色が変化することに気付けるように、友達のグループがまとめたカードを共有し、考えたことを伝え合うよう促す。 ○別の場面でも、曲想とパートの役割に合う音色との関わりを考えられるように、イの場面でも、話し合ったり聴いたりしながら、曲想と各パートの役割に合う音色を整理するよう促す。 ○曲想とパートの役割に合う音色との関わりから生まれるよさに気付けるように、曲想を表すための各パート同士の関わり方や、その際に生まれる音色について問いかける。
3 本時の学習の振り返りをする。 それぞれのパートがそれぞれの役割に合う音色で演奏をすると、曲想を表せることがわかったよ。次は、パートの役割に合う音色で演奏したいな。	○次時では、パートの役割に合う音色を生かして演奏する意欲がもてるように、パートの役割と音色を関わらせて鑑賞できたことを称賛する。